

国際理解教育のための情報共有サイト「Gotcha! (ガッチャ!)」の提案 —外国人留学生と市内小中学校を繋ぎ、多文化共生の八王子市へ—

The suggestion of an information sharing website “Gotcha!” for education for international understanding in schools in Hachioji city

Team the Opening of the Eyes

松山美華¹⁾、藤岡鳳¹⁾、加藤七海¹⁾、岡島賢一¹⁾

指導教員 前田幸男

1) 創価大学法学部法律学科 前田ゼミナール

キーワード：国際理解教育, 外国人留学生, 小中学校, ウェブサイト, 多文化共生

1. はじめに

近年、在住外国人が急増する八王子市では、「多文化共生推進プラン」(八王子市市民活動推進部多文化共生推進課, 2018)のもと、様々な取り組みが行われてきた。その1つが、小中学校の国際理解教育における外国人留学生講師の活用である。児童生徒が幼い頃から、外国人留学生を通じて異文化を学ぶことで、多文化共生意識や国際感覚の醸成が期待される。実際に外国人留学生を講師として招きたいと考える教員は多く、講師として参加意欲のある留学生も多い。しかしながら、相互が繋がるきっかけがないことから、市内小中学校における留学生講師の活用が浸透していない。私たちは、「学園都市」八王子の魅力ともいえる留学生をもっと活かして、小中学校の国際理解教育を充実させるべきであると考えている。情報共有サイト「Gotcha (ガッチャ)」をその一助としたい。

2. 現状

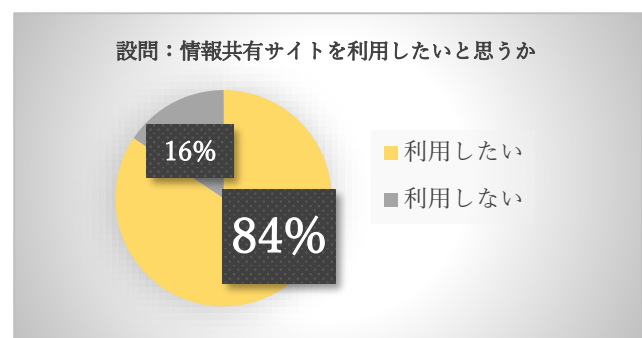
市内小中学校と外国人留学生の2つの視点から、国際理解教育における留学生派遣の現状を分析していく。

① 小中学校における留学生派遣の現状

市内のほとんどの小中学校において国際理解教育が実施されており、留学生講師の派遣も効果的

な取り組みの1つである。しかし実際、私たちが行った市内小学校(n=13)と中学校(n=19)に対する「国際理解教育に関するインタビュー調査」において、国際理解教育において外国人講師を招いていると答えた小中学校教員は30%しかいなかった。一方で、国際理解教育のために留学生講師を派遣する機能を有した情報共有サイトがあれば利用したいと回答した小中学校教員は84%に上った。(図1参照)

図1 国際理解教育に関するインタビュー調査



※インタビュー調査結果をもとに筆者作成。

留学生の派遣は主に、八王子国際協会の国際理解教育サポート事業によって行われているが、その利用件数は著しく低い。同協会へのインタビュー(2020)によると、2019年のサポート事業の利

用件数は5件と少ない。さらに、留学生講師の当日キャンセルといった問題点も明らかとなった。

② 留学生の国際理解教育への参加意欲

留学生に対するアンケート調査(n=30)の結果、「ボランティアとして、国際理解教育の講師をやりたいか」との設問に「はい」と答えた学生は7割を超え、意欲的な学生が多いことがわかった。さらに、「いいえ」と答えた学生は理由として日本語能力への自信のなさを挙げ、それに対するサポートがあれば参加したいと答える学生が多かった。

そこで、小中学校と外国人留学生の双方のニーズに応え、八王子市の国際理解教育を充実させることを目指し、八王子市の国際理解教育の情報共有サイト「Gotcha! (ガッチャ!)」を提案する。

3. 提案

私たちが提案するのは、留学生の派遣を含んだ国際理解教育の情報共有サイト「Gotcha! (GO Together! interCultural HACHIOJI!)」である。

この提案の先行事例として、京都市国際交流協会が行っている国際理解プログラム“PICNIK” (Program for InterCultural Nexus In Kyoto) が挙げられる。このプログラムは、ホームページに登録された外国人留学生を小中学校に派遣することで、学校と留学生との交流の活性化を促している。実際に、京都市国際交流協会の「国際理解プログラム PICNIK」(2019)によると、2019年度は留学生の登録が87名、派遣件数が170件、派遣人数が137名という実績が挙げられている。

図2 国際理解プログラム“PICNIK”実施の様子



※京都市国際交流協会 kokoka Twitter より引用

私たちの提案するサイトによって、八王子市の国際理解教育の充実に貢献できることは2つある。

1点目に、市内小中学校でおこなわれる国際理解教育において留学生講師の派遣をスムーズにすることができる。このサイトでは、ボランティアで国際理解教育授業に参加したい留学生や研究生が、登録できるシステムを作る。登録した留学生の情報を基に、市内小中学校の派遣要請にすぐに対応ができる。

2点目に、今後の国際理解教育の質の向上が期待される。本サイトで国際理解教育に関する授業実践例の共有をできるようにし、そこから各学校の教員の方々が情報を得られるようにする。

以上のような情報共有サイトを、八王子市と協力して運営していきたい。

4. 今後の展望

今後私たちは実際に、情報共有サイト「Gotcha!」の作成に取り掛かる。サイトでは、小中学校の国際理解教育への留学生派遣情報を掲載、八王子国際協会が作成した「国際理解教育プログラム集」などを紹介する。

本サイト運営の懸念点としては、システムメンテナンス作業やサイトの安全性の維持、外国人留学生講師の個人情報保護などが挙げられる。立ち上げ後それらの点に対処し、軌道に乗ってきた段階で、サイトの運営を八王子市に委託したい。

さらに、本サイトを小中学校教員と留学生の双方に知ってもらい、実際に使ってもらおうための呼びかけ方法についても検討していく。

私たちは、八王子市が行政レベルで本サイトを運営することで、より多くの小中学校の国際理解教育への留学生派遣を可能にできると考えている。ぜひ、サイトの導入を検討していただきたい。

参考文献

京都市国際交流会館 (2019)「2019年度 年報」
八王子市市民活動推進部多文化共生推進課 (2018)
「多文化共生推進プラン」